

第４回各務原市総合計画審議会 議事録

日時		令和元年 5 月 13 日（月） 13：30～14：40	
場所		本庁 4 階 大会議室東	
出席者	審議会委員	会 長 柳原 幸一 （各務原商工会議所会頭） 委 員 青木 文子 （各務原市教育委員会委員） 小鍋 泰弘 （各務原市副市長） 勝野 忠男 （各務原市シニアクラブ連合会会長） 北川 リツ （各務原市環境市民会議委員長） 木村 徹之 （各務原市自治会連合会会長） 杉山 幹治 （各務原市子ども会育成協議会会長） 長縄 尚史 （かかみがはら暮らし委員会代表理事） 宮田 延子 （中部学院大学看護学科長） 森 勇 （各務原市民生・児童委員協議会会長）	
	事務局	植田 恭史 （企画総務部長） 加藤 雅人 （企画総務部次長） 大矢 貢 （企画総務部次長） 堀 善子 （企画政策課長補佐） 鈴木 章弘 （企画政策課政策推進係長） 三輪 真也 （企画政策課政策推進係） 宇野 仁 （企画政策課政策推進係） 小林 俊彦 （企画政策課経営企画係） 中田 啓太 （企画政策課経営企画係）	
欠席者	審議会委員	副会長 紙谷 清 （各務原市社会福祉協議会会長） 委 員 板谷 和宏 （各務原警察署署長） 木野 昇 （各務原市農業委員会委員長） 高木 朗義 （岐阜大学社会基盤工学科教授） 横山 浩之 （各務原市体育協会会長）	
次第			
1 議事			
（1）これまでの審議会でのご意見とその対応について			
（2）総合計画後期基本計画の取組方針等について			
2 その他			
1 議事			
（1）これまでの審議会でのご意見とその対応について			
〈事務局より説明〉			
※意見なし			

(2) 総合計画後期基本計画の取組方針等について

〈事務局より説明〉

【B委員】

21 ページの「後期基本計画における取組み方針」に書かれている「つながりづくり」には同感であり、この審議会での意見の根底にあった考え方である。今後、それをどのように実現していくかについて話をしていきたい。市民が体感できるようにしていくことが重要。

【会長】

行政だけが言っていても実現は難しく、やらされ感にもつながる。個人も企業も団体も今までどおりのやり方でなく、自主的に関わっていくことが重要。

【D委員】

基本計画で「つながり」を重視すると打ち出しても、政策に落とし込む段階で今までどおりでは、変わっていかない。計画と政策につながりをもたせていくことが重要。市民、行政などが共通の認識で進めていかないと、計画を作っただけで終わってしまう。

【会長】

「個人、団体、事業者、行政等の有機的なつながり」という記述から何かイメージすることはあるか。

【D委員】

「つながりづくり」や「活動の継続」という点では、人が替わっていくことを避けなければならない。例えばエリア担当職員などは同じ人が継続していかなければ、継続したつながりや信頼関係、顔が見える関係をつくっていけない。

【A委員】

川島地区を担当するエリア担当職員は配置当初から交代しておらず、非常に助かっている。一方、単位自治会にはまだエリア担当職員が浸透していない部分もあると考えており、エリア担当職員をもっと活用していくことで、重要な施策に地域の意見を反映していけるのではないかと。

【G委員】

つながりづくりのためには、どのような組織、立場においてもコミュニケーションをとっていくことが重要である。各務原市は恵まれたまちであり、高齢者、若い人など誰にとっても住みよいまちにしていくべき。高齢者が住みやすいまちという点からは、認知症予防などに様々なつながり、フォーメーションで取り組んでいくことなどが考えられる。

【H委員】

つながりは重要であるが、どのようにつくっていくかが今後の課題である。例えばイベントや行事に「参加する」ことはよくても、「運営する」立場になることは嫌がられる。地域行事に参加する市民の割合という指標があるが、参加するだけでなく、さらに関心を高めてもらう必要がある。そのためには、どのように活動の大切さを伝えていくかがポイントである。

【会長】

「政策間のつながり」という記述もあるが、何かイメージすることはないか。

【J委員】

市では環境教室に取り組んでいるが、環境教育と学校教育のつながり、またそれに3世代で取り組むことなどが考えられるのではないか。様々な立場の得意分野を活かし、やりがいを感じてもらえるような仕組みがあるとよい。

【H委員】

高齢者や障がい者、難病を抱えている方などに理解がある、多様性のあるまちをつくっていくことが重要ではないか。色々な場で当事者や家族の視点・意見を取り入れてまちづくりを進めてはどうか。

【E委員】

77 ページ、字句の訂正をお願いする。「被保険者の資格管理の適正化も題となっています。」となっており、「課」が抜けている。

77 ページ現状の4ポツ目「若年層を中心に年金制度に対する不信感や無関心などから、年金の未加入や未納が問題となっています」について、何が問題となっているのかを書くべきではないか。

目指す姿について、「～しています」との記載は違和感がある。既に実現しているものもあり、「～すべき」や「～する必要がある」等の記述のほうが目指すべき方向が伝わるのではないか。

【B委員】

人と人とのつながりづくりには、「場所」「機会」「おもしろさや驚き」が必要。総合計画におもしろみを出すことは難しいのかもしれないが、行政がおもしろさを出しながら、仕事に取り組むことも重要ではないか。

複合的な課題という観点では、岐阜県が移住と福祉（仕事の面、地域とのつながりづくりの面）を掛け合わせた取り組みを進めている。困っている問題を掛け算すると、相互補完して、魅力的になる場合もある。

【C委員】

市では既に横串を重視している。空家の問題でいうと、各務原市は人口減少だが世帯数は伸びており、まだしばらくは空家問題は深刻化しないとも考えられる。その間に空家リノベーションなど、様々な部署が連携しながら、どういったことができるかを考えながら進めている。また、法令を遵守しながら、何ができて何ができないのか、できないものをどのようにやっていくかを考える時代になっている。

2 その他

【事務局】

- ・ 次回の開催は、6月7日午前で開催したいと考えているため、ご予定をお願いしたい。